

FPG

Financial Products Group

2022年9月期 第3四半期連結決算説明資料 (2021年10月～2022年6月)



株式会社 F P G

(証券コード：7148)

第3四半期
(累計)

**リースファンド事業、不動産ファンド事業ともに好調に推移した結果、
営業利益、経常利益、純利益のいずれもが4月26日公表の通期予想値を超過**

- ✓ リースファンド事業は、好調に推移した結果、売上高は111億円（前年同期比+7.3%）となり、前年度通期実績値を超過。組成も期初予想の2,000億円を超過し、好調な進捗
- ✓ 不動産ファンド事業も、好調に推移した結果、売上高は353億円（前年同期比+136.5%）となり、前回公表の通期予想値342億円を前倒し達成

通期業績予想

・
期末配当金

第3四半期の実績を踏まえ、7月28日に通期業績予想のさらなる上方修正を公表

期末配当金(予想)は、前年比27.5円増配となる、1株当たり46.0円に上方修正

第3四半期の
トピックス

海外不動産を対象とした集団投資事業案件の販売を開始

**脱炭素社会への移行に貢献する「トランジション・ファイナンス」の取り組みとして、
2021年12月に受注した大型案件(コンテナ船18隻)の組成を6月より順次開始**

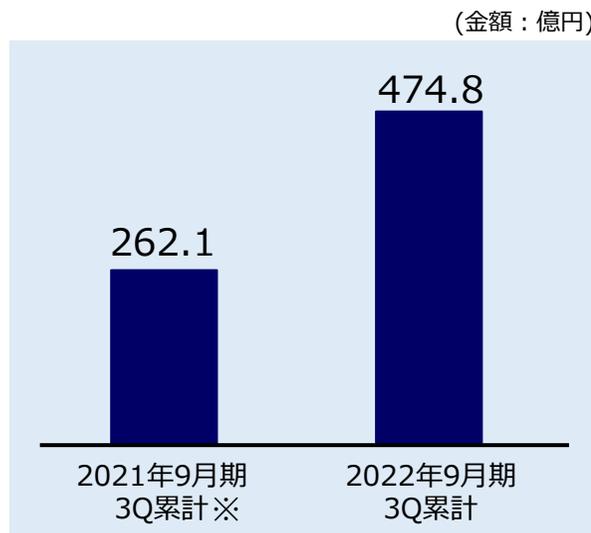
■ 4項目すべてにおいて前年同期比ほぼ倍増となり、コロナ禍からの脱却が鮮明

売上高

約 1.8倍

- ✓ リースファンド事業に加え不動産ファンド事業がけん引

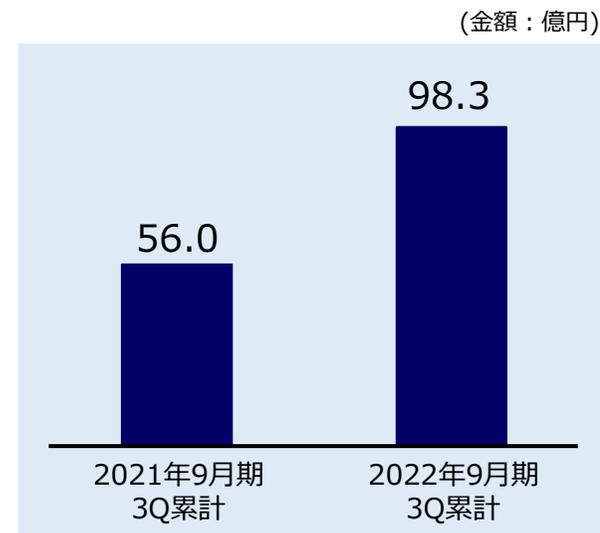
※「収益認識に関する会計基準」の適用により、比較のため不動産ファンド事業の売上高を総額方式で組み替えた値



営業利益

約 1.8倍

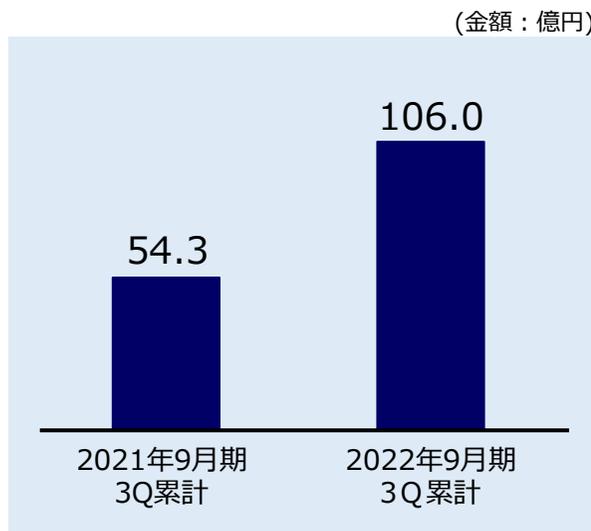
- ✓ 増収に加え、販管費の適切なコントロールもあり、4月26日に公表した通期業績予想の営業利益97億円を、第3四半期で前倒し達成



経常利益

約 2.0倍

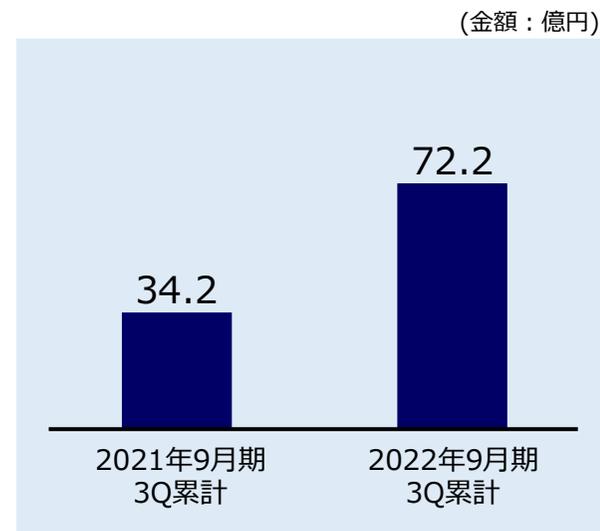
- ✓ 4月26日に公表した通期業績予想の経常利益100億円を、第3四半期で前倒し達成



純利益※

約 2.1倍

- ✓ 4月26日に公表した通期業績予想の当期純利益67億円を、第3四半期で前倒し達成



※親会社株主に帰属する四半期純利益

- 第3四半期の実績を踏まえ、通期業績予想のさらなる上方修正を実施
 - ✓ 第3四半期(累計)の営業利益、経常利益、純利益のいずれもが、4月26日公表の通期予想値を超過
 - ✓ 通期予想値を、営業利益110億円(前回予想比+13.4%)、経常利益115億円(同 +15.0%)、純利益77億円(同 +14.9%) にそれぞれ上方修正
- 1株当たり配当金予想額を46.0円に上方修正(前回予想比+6.0円、前年比+27.5円の増配)

(金額：億円)

	第3四半期累計			通期				
	2021年9月期 実績 ※1	2022年9月期 実績	前年同期比	2021年9月期 実績 ※1	2022年9月期		今回予想	
					前回予想 4/26公表	今回予想 7/28公表	対前年同期比	対前回予想比
売上高	262.1	474.8	+81.1%	335.8	490.0	565.0	+68.2%	+15.3%
リースファンド事業	104.3	111.9	+7.3%	111.6	135.0	135.0	+21.0%	-
不動産ファンド事業	149.3	353.1	+136.5%	212.8	342.0	417.0※2	+95.9%	+21.9%
その他事業	8.5	9.7	+14.1%	11.4	13.0	13.0	+13.9%	-
営業利益	56.0	98.3	+75.6%	52.3	97.0	110.0	+110.2%	+13.4%
経常利益	54.3	106.0	+95.3%	51.4	100.0	115.0	+123.4%	+15.0%
売上高経常利益率	20.7%	22.3%	+1.6%	15.3%	20.4%	20.4%	+5.0%	▲0.0%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	34.2	72.2	+111.3%	29.4	67.0	77.0	+161.3%	+14.9%
売上高当期純利益率	13.0%	15.2%	+2.2%	8.8%	13.7%	13.6%	+4.9%	▲0.1%
1株当たり配当金(円)	-	-	-	18.5	40.0	46.0	+27.5円	+6.0円

※1：本事業年度との比較のため、不動産ファンド事業の売上高を総額方式で組み替えた値

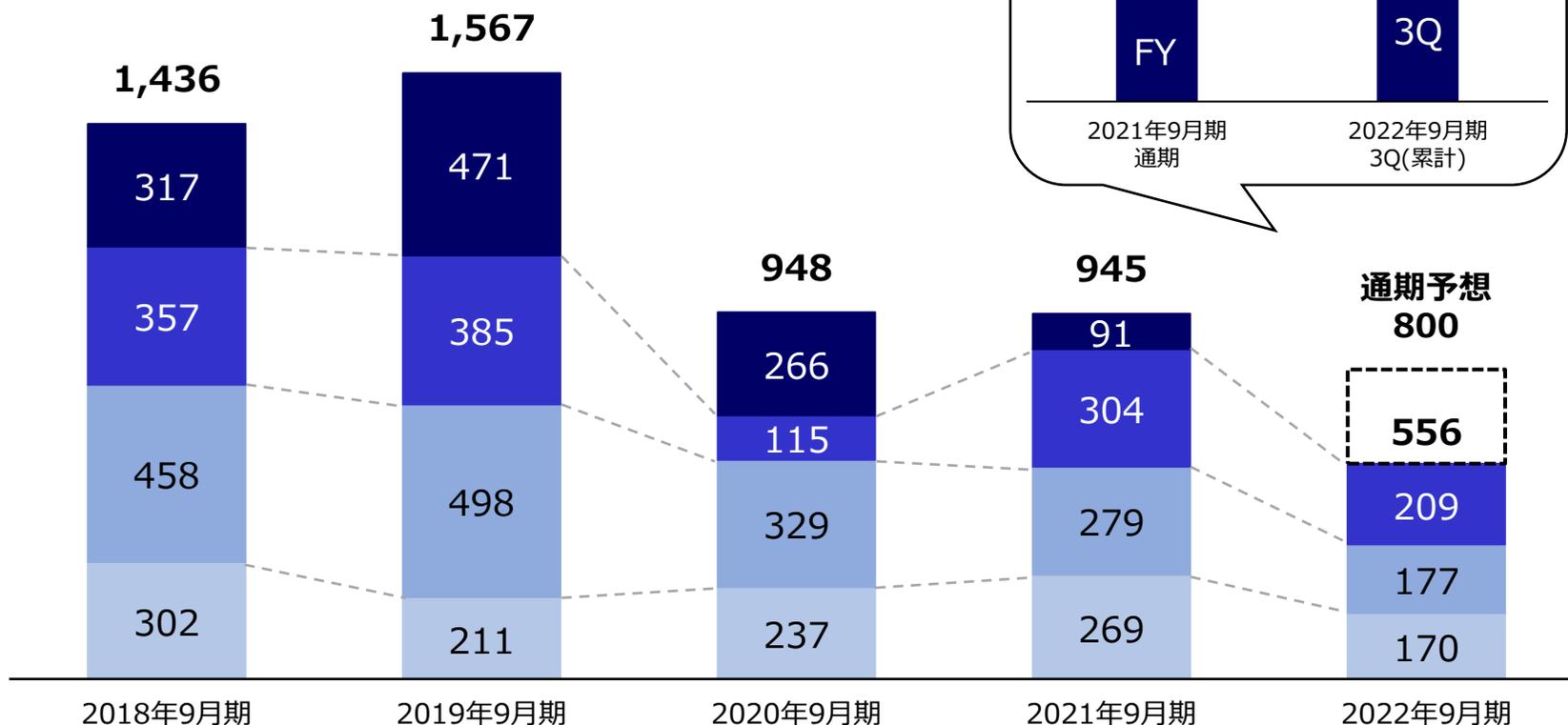
※2：海外不動産投資事業案件の売上(純額方式)を含む

- 収益率の高い案件の出資金販売が好調に継続した結果、第3四半期(累計)の売上高が、前年度通期実績値を超過
- 出資金販売の計画達成に向けて、第4四半期も販売を推進

販売額の推移

(金額：億円)

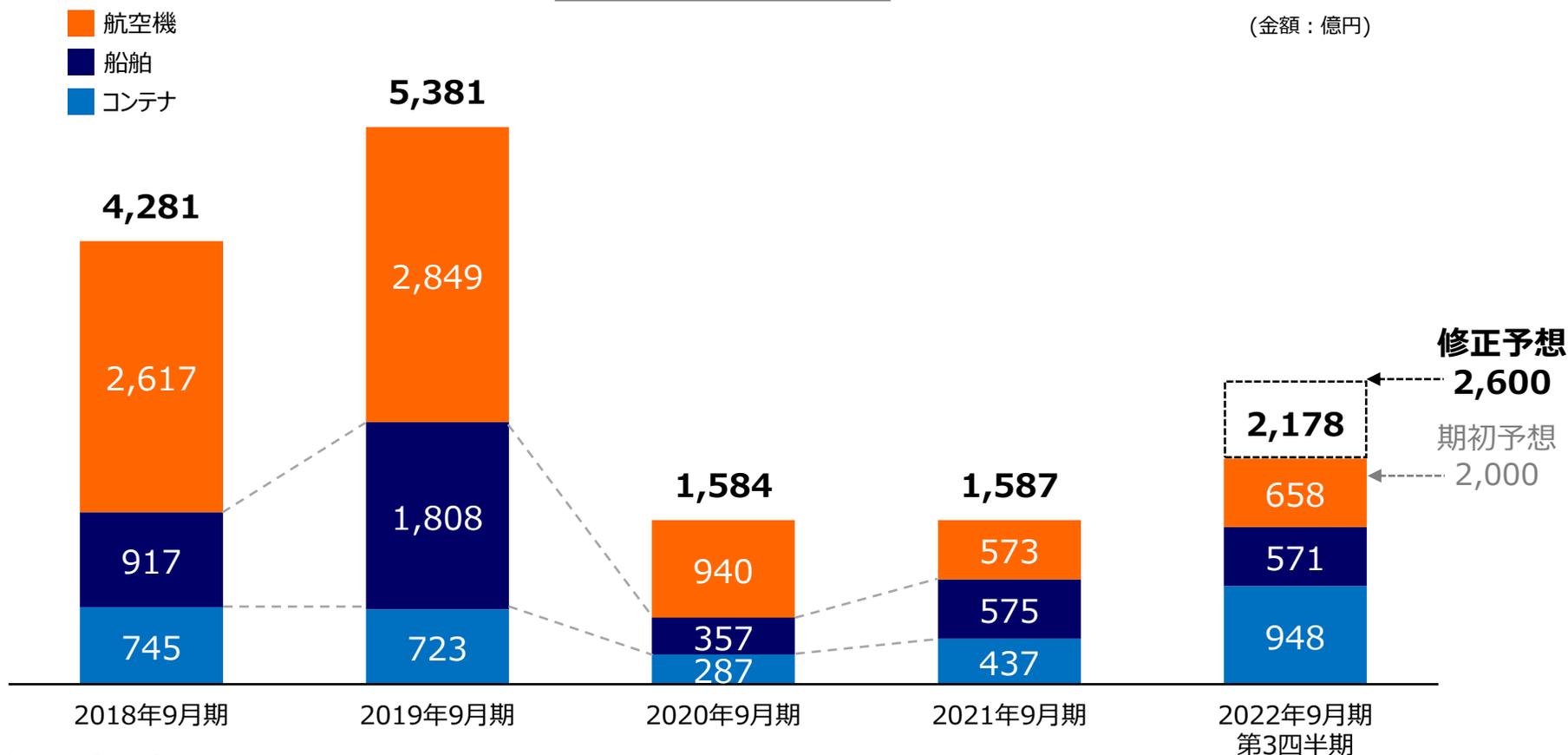
- 第4四半期
- 第3四半期
- 第2四半期
- 第1四半期



- 積極的に組成を行った結果、第3四半期で期初予想値を超過。通期予想を2,600億円に上方修正
 - ✓ 航空機は、引き続き案件を厳選しながらも、前年度通期実績値を超過
 - ✓ 船舶は、トランジション・ファイナンスの取り組みとして、2021年12月に受注した大型案件（コンテナ船18隻）の組成を6月より順次開始するなど、第3四半期時点で前年度通期実績値の水準に到達
 - ✓ コンテナは、2022年3月の過去最大規模となる総額376億円の組成後も案件が継続し、過去最高の年間組成額を更新

組成額の推移

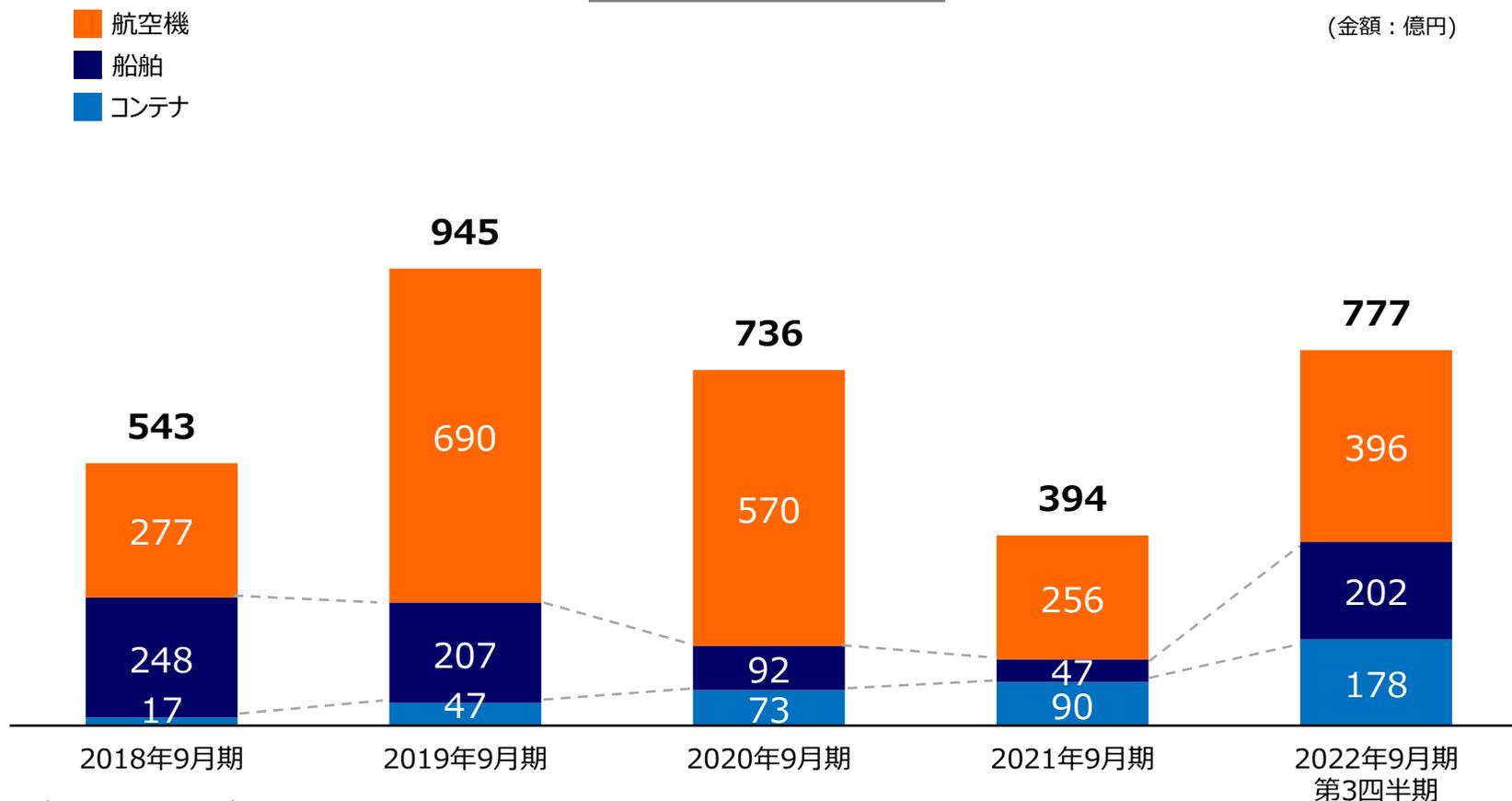
(金額：億円)



- 第3四半期の好調な組成の結果、前期末比ほぼ2倍の水準を確保
- 航空機案件と海運案件が同等の規模となり、海運案件にも強みを持つ当社ならではの在庫構成比を実現

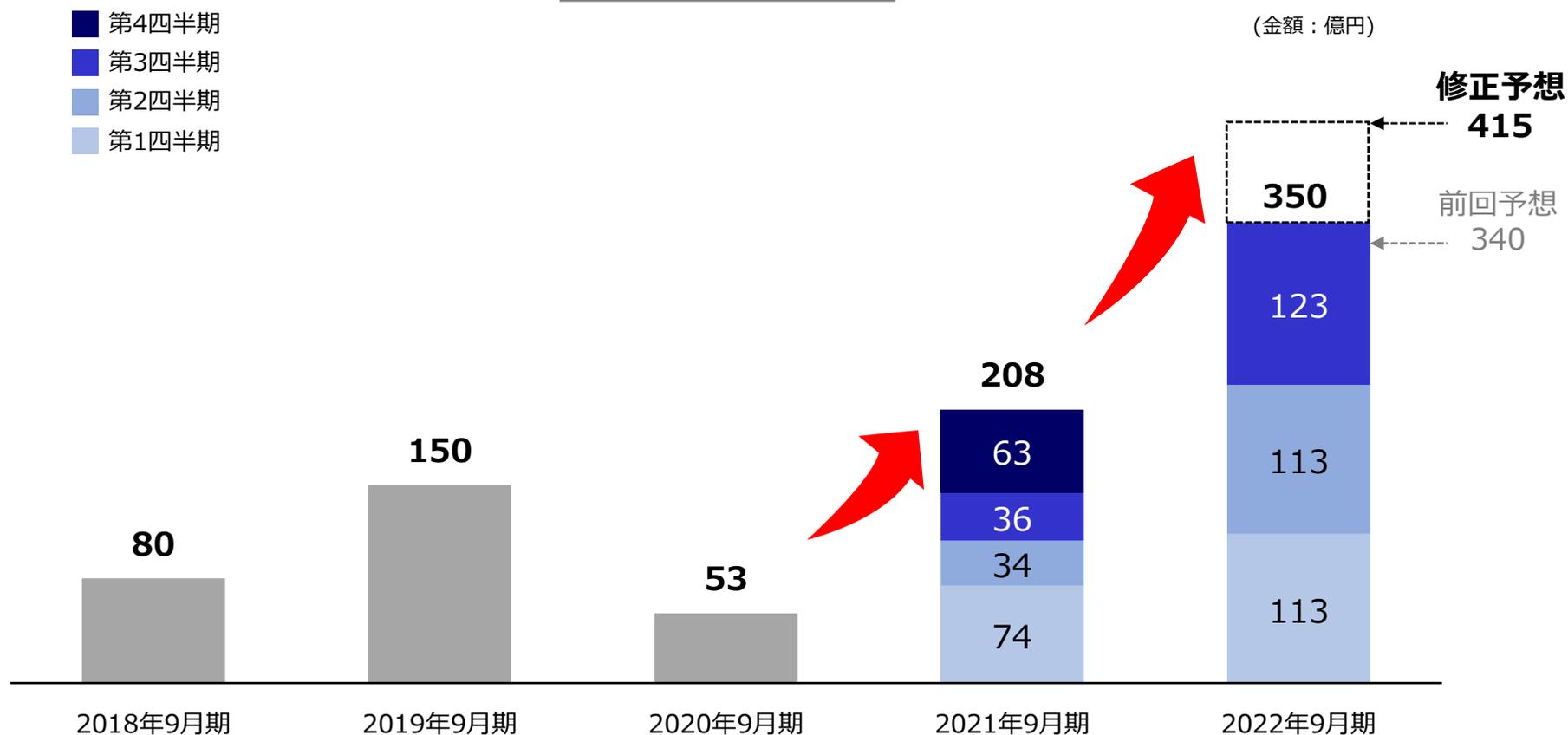
在庫の推移

(金額：億円)



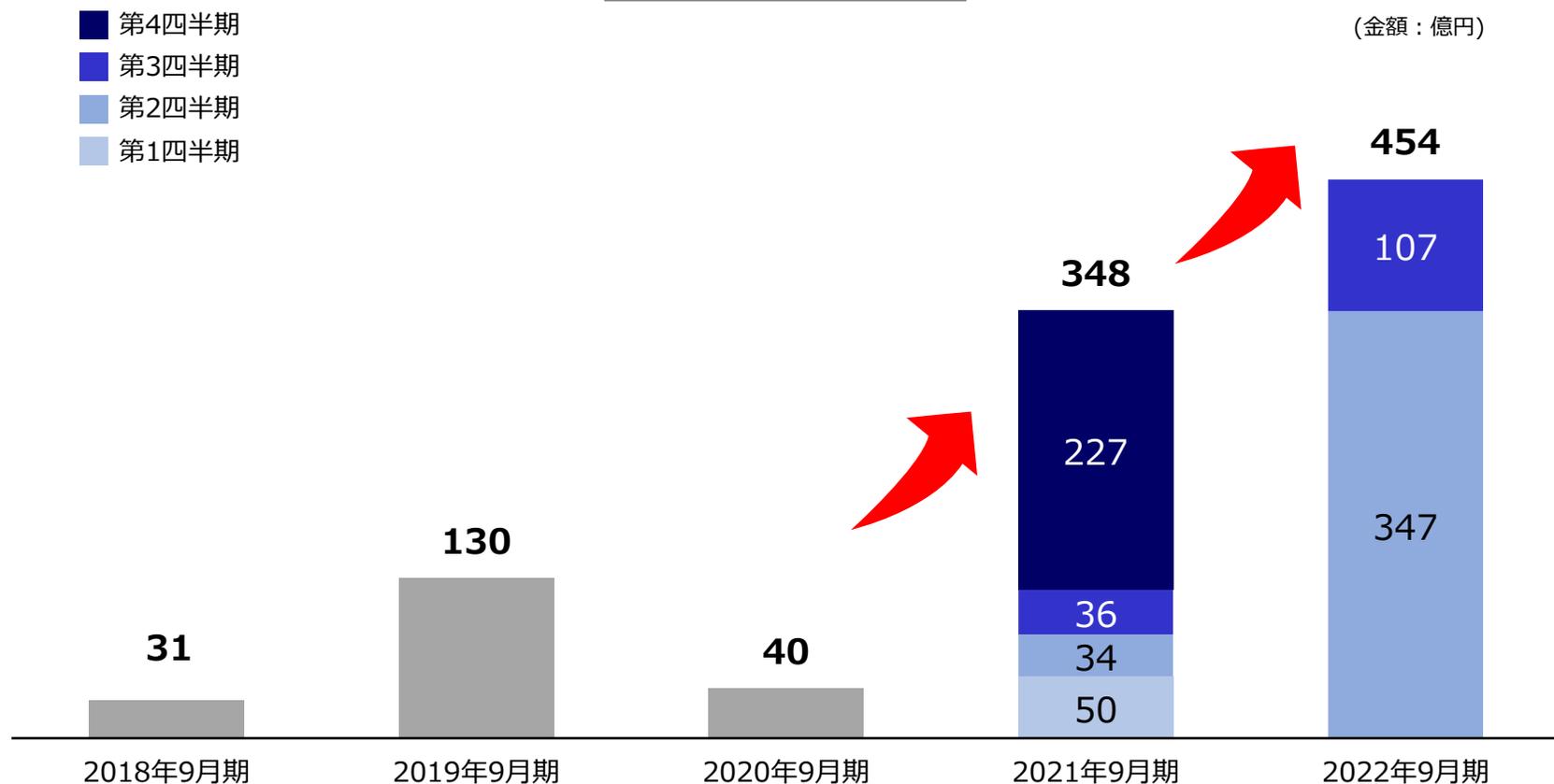
- 第3四半期の販売額は123億円となり、四半期販売額の過去最高を更新
- 通期販売予想を415億円に上方修正。リースファンド事業と同規模の事業規模を目指し、今後も積極的に販売を推進

販売額の推移



- 第3四半期は、大阪市（心齋橋・西心齋橋）および福岡市（大名）で、合計3案件を組成
- 来期を見据え、第4四半期も積極的に組成を行う方針

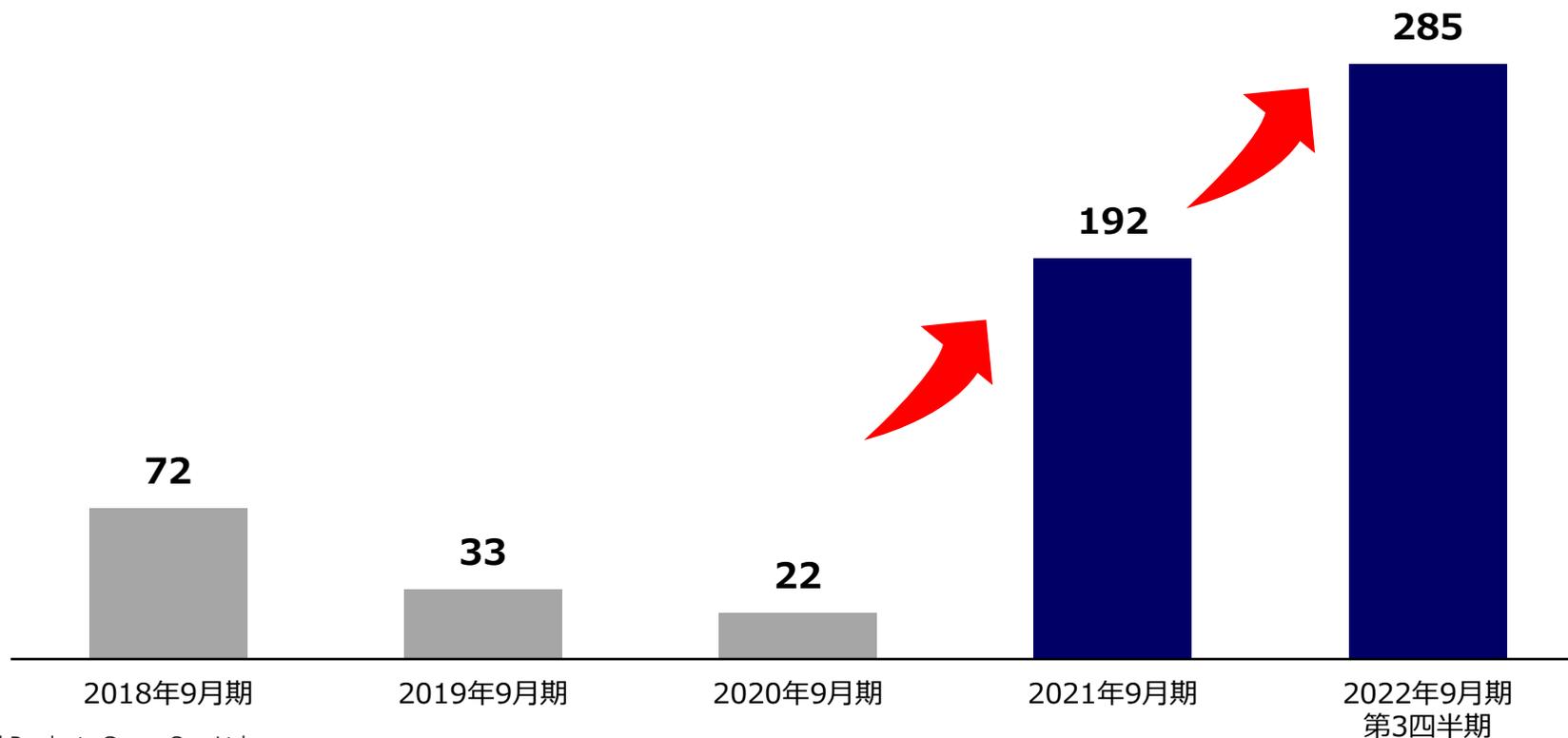
組成額の推移



- 第3四半期の順調な物件取得と組成により、旺盛な需要に見合う在庫を確保

在庫の推移

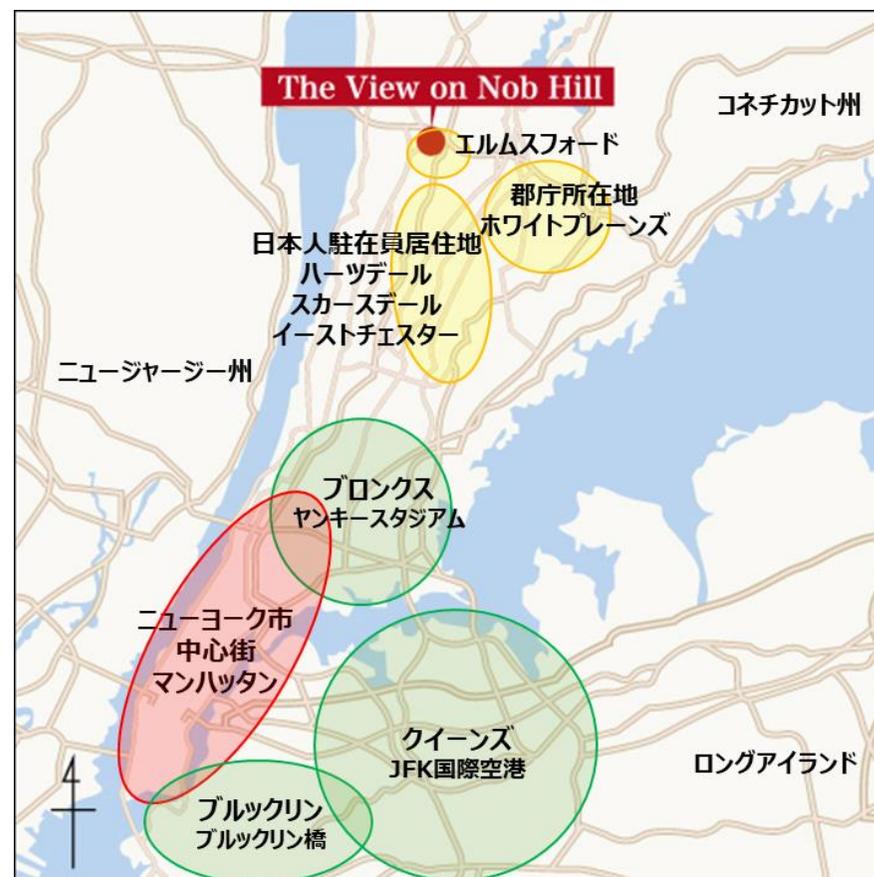
(金額：億円)



- 海外不動産を対象とした国内中小企業向けの、小口投資が可能な集団投資事業案件を開発
- 第1号案件として、ニューヨーク州エルムスフォードに所在する、100億円超となる大規模集合住宅案件を組成し、2022年6月より販売を開始

第1号案件： The View on Nob Hill

所在地：ニューヨーク州ウェストチェスター郡エルムスフォード
アクセス：ニューヨーク州の中心部マンハッタンから車で約35分
戸数：22棟416戸
用途：住宅



ご参考

連結損益計算書の概要

(金額：億円)

	2021年9月期 第3四半期累計※	2022年9月期 第3四半期累計	増減率
売上高	262.1	474.8	+81.1%
① 売上原価	157.6	325.7	+106.6%
売上総利益	104.5	149.0	+42.7%
販売費・一般管理費	48.4	50.7	+4.6%
営業利益	56.0	98.3	+75.6%
② 営業外収益	21.7	15.4	▲28.7%
③ 営業外費用	23.4	7.7	▲66.8%
経常利益	54.3	106.0	+95.3%
税引前四半期純利益	48.7	105.2	+115.8%
法人税等合計	14.7	33.3	+126.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	34.2	72.2	+111.3%

① 売上原価
不動産取得原価、リースファンド事業案件組成コスト、顧客紹介者への支払手数料等を含む。
上記に加え、2021年9月期はAir Mauritiusの経営破綻に伴う評価損を含む

② 営業外収益
一時的に立替えた出資金を投資家に販売する際に徴収する立替利息(受取利息として計上)、金銭の信託運用益等を含む

③ 営業外費用
資金調達に伴う支払利息等。2021年9月期はAir Mauritiusの経営破綻に伴う費用を含む

※ 不動産ファンド事業の売上高および売上原価を総額方式に組み替えた値

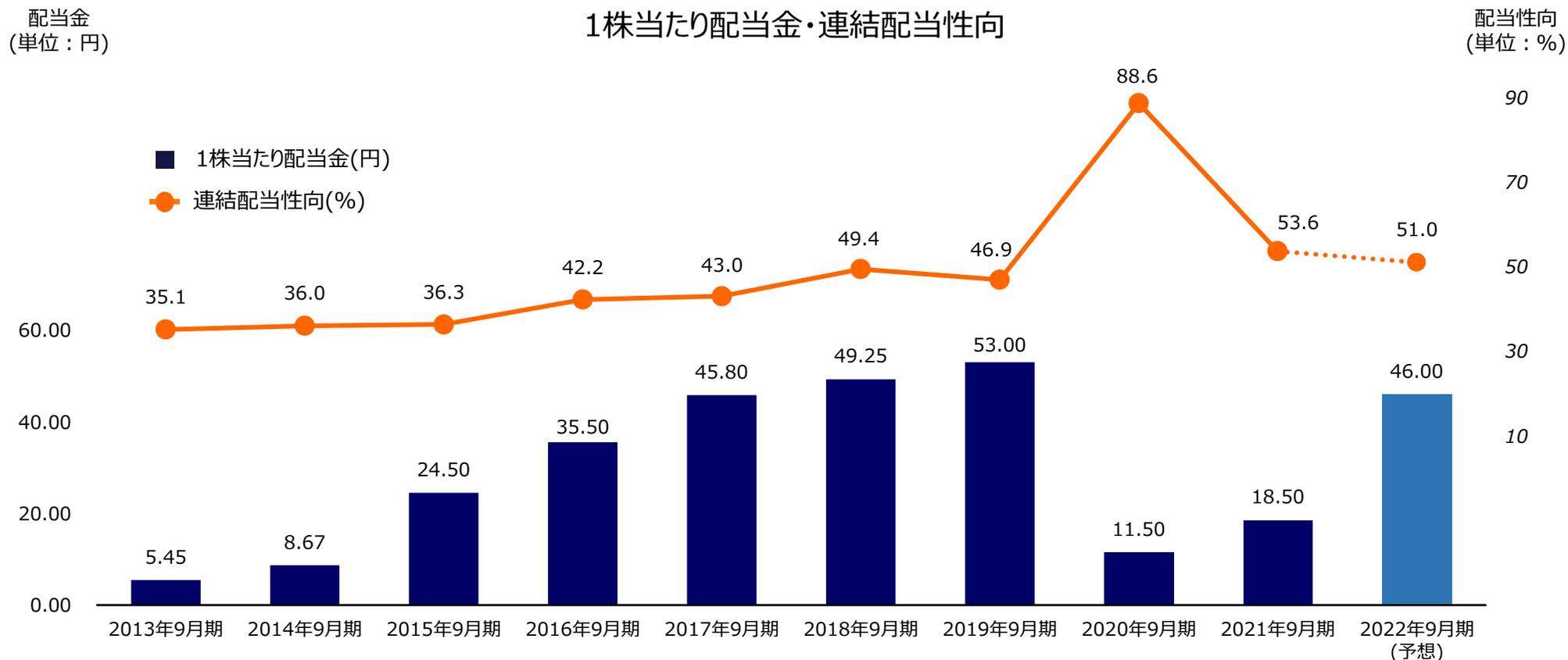
連結貸借対照表の概要

(金額：億円)

資産	2021年9月期	2022年9月期 第3四半期末	増減
流動資産	857.8	1,362.4	+504.6
現金預金	208.1	129.9	▲78.2
① 商品出資金	208.6	668.5	+459.9
② 金銭の信託(組成用航空機)	185.3	214.1	+28.8
③ 組成用不動産	192.2	285.8	+93.6
固定資産	61.1	52.8	▲8.3
資産合計	918.9	1,415.3	+496.4
負債・純資産	2021年9月期	2022年9月期 第3四半期末	増減
流動負債	472.7	910.0	+437.3
短期借入金等	387.6	710.5	+322.9
④ 前受金	47.2	-	▲47.2
④ 契約負債	-	116.5	+116.5
固定負債	152.2	154.3	+2.1
長期借入金等	147.3	148.9	+1.6
負債合計	625.0	1,064.3	+439.3
純資産合計	293.9	350.9	+57.0
負債純資産合計	918.9	1,415.3	+496.4

- ① 商品出資金
リースファンド事業および不動産ファンド事業(海外不動産投資事業案件)において投資家に販売するまで当社グループが一時的に立替えている出資金
- ② 金銭の信託(組成用航空機)
航空機リース案件に係る信託受益権の在庫
- ③ 組成用不動産
不動産ファンド事業(不動産小口化商品)における在庫
- ④ 前受金/契約負債
主にリースファンド事業および不動産ファンド事業(海外不動産投資事業案件)における手数料。
2021年9月期までは、「前受金」に計上していたが、「収益認識に関する会計基準」の適用に伴い、2022年9月期より、「契約負債」に計上

- 基本方針：持続的な成長と企業価値向上のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続して実施
- 配当性向：連結配当性向 50%を目安とする
- 通期業績予想の上方修正（今期3度目）により、2022年9月期の配当予想を上方修正
 - ✓ 2022年9月期(4/26 修正予想)：1株当たり40.0円（配当性向 51.0%）
 - ✓ 2022年9月期(7/28 修正予想)：1株当たり46.0円（配当性向 51.0%）





<JPX日経400>

東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場を主市場とする上場企業から、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸条件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される株価指数。

F P Gは、2016年から6年連続で採用されている。



<S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数>

日本市場の代表的な株価指数であるTOPIXをユニバースとし、環境情報の開示状況、炭素効率性の水準に着目して構成銘柄のウェイトを決定する指数。

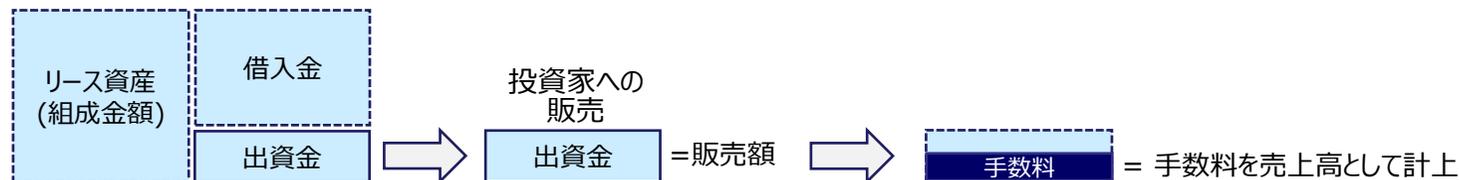
※2022年6月現在

本資料中の事業区分と売上高について

■ 本決算説明資料では、当社の事業を以下3つの事業区分に分けて説明しております。

1. リースファンド事業

航空機・船舶・コンテナを対象とした、オペレーティング・リース事業(リースファンド事業)の組成・管理および投資家への匿名組合出資持分・任意組合出資持分・信託受益権の販売を行っています。売上高は、オペレーティング・リース事業の組成におけるアレンジメント・フィー、組合出資持分を投資家に販売する際に受け取る手数料等を計上しています。なお、投資家への組合出資持分・信託受益権の販売額は売上高として計上していません。



2. 不動産ファンド事業

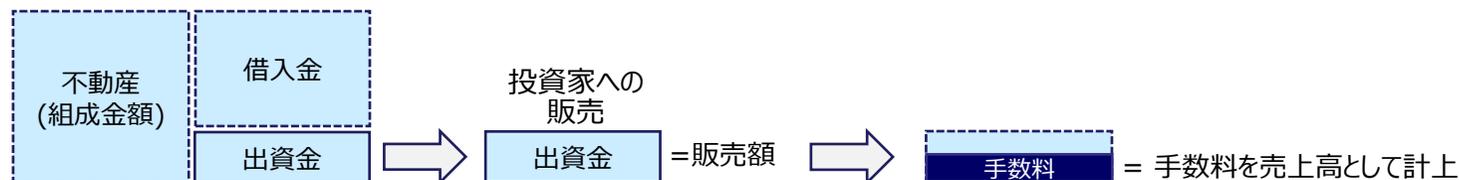
① 不動産小口化商品

株式会社FPG信託の信託機能を活用した不動産小口化商品の組成・管理および投資家への販売を行っており、投資家への販売額等を、売上高として計上しています。



② 海外不動産投資事業案件

海外不動産を対象とした集団投資事業案件の組成・管理および投資家への任意組合出資持分の販売を行っています。売上高は、集団投資事業案件の組成におけるアレンジメント・フィー、任意組合出資持分を投資家に販売する際に受け取る手数料等が計上されます。なお、投資家への任意組合出資持分の販売額は売上高として計上されません。



3. その他事業

FinTech事業、保険事業、M&A事業、プライベートエクイティ事業および航空事業等を総称して、「その他事業」としてしています。FinTech事業の売上高は、システム開発やネットワークインフラ構築に関わる業務受託料等を計上しています。保険事業やM&A事業は手数料、プライベートエクイティ事業は譲渡収益、航空事業は輸送等の対価を、売上高として計上しています。

本資料に掲載されている業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいております。
実際の業績は、さまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、掲載の見通しとは異なる可能性があります。

【お問い合わせ】

株式会社 F P G

担当部署：経営企画部

TEL: (03) 5288-5691 E-mail: ir@fpg.jp URL: <https://www.fpg.jp/ir/inquiry.html>